

都道府県名

石川県

学校の概要（平成15年4月現在）

|     |           |     |     |      |     |     |
|-----|-----------|-----|-----|------|-----|-----|
| 学校名 | 押水町立押水中学校 |     |     |      |     |     |
| 学 年 | 1 年       | 2 年 | 3 年 | 特殊学級 | 計   | 教員数 |
| 学級数 | 3         | 3   | 3   | 1    | 10  | 19  |
| 生徒数 | 83        | 91  | 83  | 1    | 258 |     |

研究の概要

## 1．研究主題

基礎・基本を確かに身につけ、自ら学び自ら考える生徒の育成

## 2．研究内容与方法

## (1) 実施学年・教科

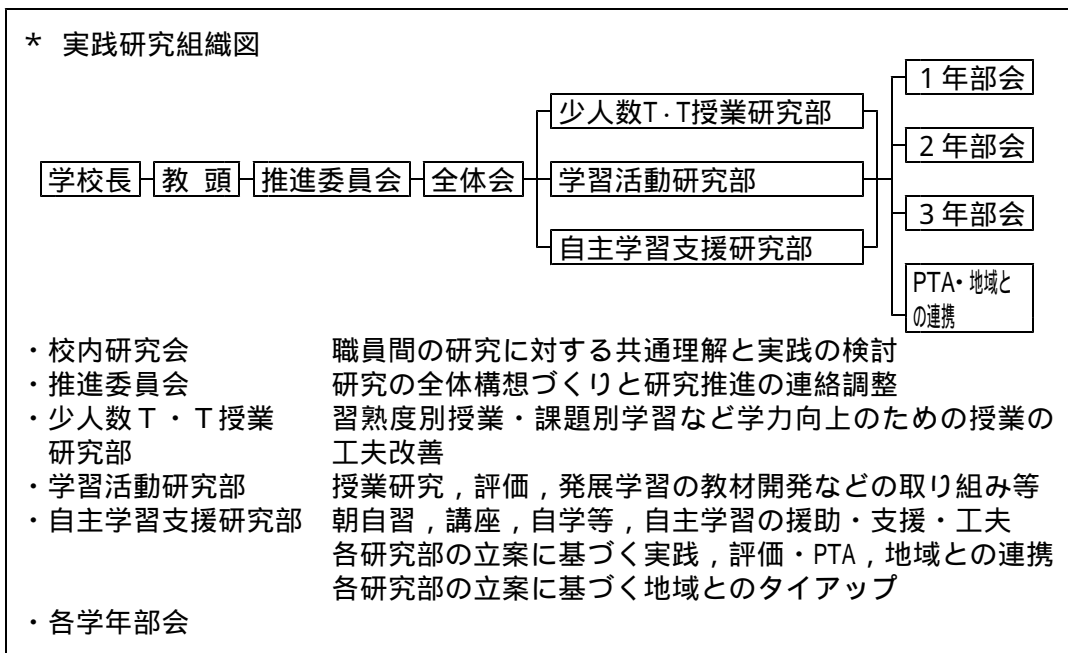
- ・ 2年生・数学  
生徒の理解の状況に差が出やすい教科，学年であり，その基礎・基本の研究に対して，環境が整っているため。
- ・ 3年生・数学・理科  
受検もひかえ，基礎・基本を大切にする学年であり，昨年度少人数実施学年でもあることから，継続して研究に取り組み，これまでの研究成果と生徒に対する実態調査を研究するため。

## (2) 年次ごとの計画

|        |  |
|--------|--|
| 平成15年度 | <p>テーマ<br/>「数学科」，「理科」において，少人数授業や習熟度別学習などに取り組むことで，きめ細かい指導を行い，基礎・基本の定着に向けた支援・指導を行う。また，習熟度別授業や課題別学習の効果的な方法について研究する。</p> <p>研究の見通し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個々の生徒理解にもとづいて「基礎・基本」の定着をめざし，習熟度別授業・課題別学習などを通して，わかりやすい授業を展開し，適切な評価をすることで，基礎・基本が定着し，個々の力量が高まっていき，生徒自らが主体性をもって行動できるであろう。</li> <li>・ 課題意識を育て，自ら解決する力を支援しつつ，個に応じた適切な評価をすることで，自信を持ち主体的に行動できる力が高まるであろう。</li> <li>・ 基礎基本の定着をもとに，さらに発展学習につなげ，生徒の学習意欲を高める。また，学校，家庭・地域の役割を明確にして基礎学力の向上の取り組みへの協力を得つつ，基本的な生活習慣の確立と，家庭学習の充実などのサポートをすることで，個々に力量がつき，生徒自らがよく考え，進んで学習し，問題解決能力を高めることができるであろう。</li> </ul> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全職員できめ細かな指導の工夫・改善に取り組み，学力の向上を図る。</li> <li>・ 少人数習熟度別学習の成果を，他教科の指導法改善につなげる。</li> <li>・ 評価方法，評価規準について研究する。</li> <li>・ 選択教科では履修幅を広げて，生徒の興味関心を高め，内容の深化を図る。</li> <li>・ 生徒の自ら学び，自ら考える力を高めるための取り組みを実践する。</li> </ul> |
|--------|--|

|        |  |
|--------|--|
| 平成16年度 | <p>テーマ</p> <p>平成15年度に引き続き、「数学科」、「理科」において、少人数授業や習熟度別学習などに継続して取り組み、きめ細かい指導や基礎・基本の定着に向けた支援・指導を行う。また、全職員できめ細かな指導法の工夫改善に取り組み、学力向上を図る。</p> <p>研究の見通し</p> <p>平成15年度から引き続き、以下を研究の見通しとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の生徒理解にもとづいて「基礎・基本」の定着をめざし、習熟度別授業・課題別学習などを通して、わかりやすい授業を展開し、適切な評価をすることで、基礎・基本が定着し、個々の力量が高まっていき、生徒自らが主体性をもって行動できるであろう。</li> <li>・基礎基本の定着をもとに、さらに発展学習につなげ、生徒の学習意欲を高める。また、学校、家庭・地域の役割を明確にして基礎学力の向上の取り組みへの協力を得つつ、基本的な生活習慣の確立と、家庭学習の充実などのサポートをすることで、個々に力量がつき、生徒自らがよく考え、進んで学習し、問題解決能力を高めることができるであろう。</li> </ul> <p>研究の内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数学科と理科において、習熟度別の学習グループを編制し、指導法や指導教材を開発する。</li> <li>・少人数習熟度別学習の成果を、他教科の指導法改善につなげる。</li> <li>・評価方法、評価規準について研究し、他教科においても、数学科・理科における成果を参考にして、T・T、習熟度別、課題別、小グループ等の多様な指導法を研究する。</li> <li>・選択教科では履修幅を広げ、さらに、効果的な補充学習と発展学習の在り方を探求する。生徒の興味関心を高め、内容の深化を図る。</li> <li>・生徒の自ら学び、自ら考える力を高めるため、多様な指導法に有効な教材やワークシートの開発に積極的に取り組む。</li> </ul> |
|--------|--|

(3) 研究推進体制



## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

- ・少人数授業では、個別に指導が行きわたり、基本的な内容が理解され、生徒は学ぶ方法を身につけ、一斉授業より学習に向かう姿勢が積極的になっていった。また、進んで話し合いに参加できるようになり、「わかった」「できた」「これを教えて」という発言も聞かれるようになった。
- ・少人数授業では、課題や発表の企画段階から、生徒一人ひとりが考えたものを生かすように教師が支援し、生徒主体の授業や活動づくりを進めてきたので、発表に少しずつ生徒が前面に出るようになり、普段、発言の少ない生徒も意欲的に発表したりしてきた。
- ・数学科少人数授業における自己評価表では、「今日の授業内容はわかりましたか？」という項目で、1学期では、A.よくわかった 57% B.だいたいわかった 23%であったが、2学期では、A.よくわかった 66% B.だいたいわかった 29%であった。1時間単位での理解は少しずつできていると考えられる。
- ・研究授業の整理会においても、「参観メモ」に沿ってやった結果、授業を振り返る視点がわかりやすくなり、能率よく、かつ、効果的に行うことができた。
- ・学校・家庭・地域の役割を明確にしなが、自主学習支援研究部からの「学習通信」の発刊などにより基礎学力の向上の取り組みへの理解を得つつ、基本的な生活習慣の確立と家庭学習の充実を促した。それより、生徒自らの課題（自学ノートなど）の提出状況においては、各クラス・各学年ともに概ね良好な結果となった。また、自学ノートは毎日点検しアドバイスをしていく中で、学習のポイントを要領よく学習できる生徒がだんだんと見られるようになり、テストに対しての関心、意識（点数、順位）も高まってきた。

### 2. 今後の課題

- ・生徒は、自ら課題に取り組み、自分の役割を意欲的にこなし、その役目をだんだんと果たしてきたが、逆に個別指導が増えたので、教師に頼る生徒が出てきたり、学習を理解できても、学習が定着しない状況が出てきた。このため、今後はより効果的にその個人にあった指導のしかたや技法を研究していかなければならない。
- ・自主学習支援研究部からの「学習通信」など、基礎学力の向上の取り組みへの理解を得つつ、基本的な生活習慣の確立と、家庭学習の充実を促したが、まだまだ家庭学習が不足しており、積極的な取り組みに少し欠ける生徒が見うけられるため、より一層のきめ細かな生徒理解と手だての工夫が必要である。
- ・少人数授業では、個別に指導が行きわたり、基本的な内容が理解され、生徒は学ぶ方法を身につけていったが、担当教師の変更をしなくてもよいか、また、するとすればどのようにしたらよいか検討していかなければならない。

### 学力把握のための学校としての取組

- ・朝自習では、基礎・基本の定着を図り、生徒の学習意欲を高めるため、1、2年生ではプリント学習（5教科の基礎、発展問題）で、3年生では講座学習で自己採点 提出 点検を行い、提出状況や、成績の変化等を見ている。
- ・家庭学習では、生徒が自ら学び、自ら考える力を高めるため、1、2年生では自主学習ノート（1ページ）を行い、提出状況や、成績の変化等を見ている。また、3年生では、講座学習（5教科の基礎、発展問題）を行い、家庭学習の

